

# K Y B 株 式 会 社

## 1. 会社の概要

平成17年10月1日より、創立70周年を記念して社名をカヤバ工業株式会社から通称社名KYB株式会社とし、ロゴマークも一新した。

- (1) 会社名：KYB株式会社
- (2) 所属部会：関東金属機械部会第1分科会  
東海地区協議会

業種：輸送用機械

- (3) 資本金：19,113百万円

従業員数：3,518名

- (4) 営業品目：

### ◆油圧製品モジュール

#### ○油圧緩衝器

四輪車用ショックアブソーバ、  
サスペンションシステム  
二輪車用フロントフォーク、  
オイルクッションユニット  
その他 鉄道車両用オイルダンパ  
耐震・防振・衝突用緩衝器

#### ○油圧機器

産業用ポンプ、モータ、シリンダ、バルブ  
四輪車用パワーステアリング  
航空機用離着陸装置、操舵装置  
その他 ジャッキ、電子機器

### ◆システム製品モジュール

○特装車両 コンクリートミキサー車、  
粉粒体運搬車、剪定枝粉碎処理車

○装置製品 シミュレータ、油圧システム、  
舞台機構、トンネル掘削機、艦艇機器

- (5) 経営理念：

「人々の暮らしを安全・快適にする技術や製

品を提供し、社会に貢献するKYBグループ」

- 1. 高い目標に挑戦し、より活気あふれる企業風土を築きます。
- 2. 優しさと誠実さを保ち、自然を愛し環境を大切にします。
- 3. 常に独創性を追い求め、お客様・株主様・お取引先・社会の発展に貢献します。
- (6) CIマーク



## 2. 知的財産部門の概要

### (1) 組織上の位置付け

本社組織として、技術・生産本部知的財産部と称する。

### (2) 構成及び人員

当社は大きく分けて、相模工場を中心とする関東地区の各生産拠点と、岐阜北工場を中心とする中部地区の各生産拠点とが存する。このため、知的財産部も相模地区に本体を置くと共に、中部地区の知財業務を担当する岐阜分室を設け



基盤技術研究所

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

ている。本体は相模工場敷地内の基盤技術研究所内にて、岐阜分室は岐阜北工場内にて活動している。人員としては約20名である。

### (3) 沿革

専任部署としては1965年に特許係が設立されたのが始まりである。1981年に特許部となるからは、岐阜北工場にリエゾンとして分室を設置した。

## 3. わが社の知的財産活動

### (1) 発明発掘

創業者である萱場資郎以来、常に当社の重要な理念であった「独創」を発明、特許として具現化するため、各技術部門との連携強化を方針の第一番に掲げて活動している。具体的には、各技術部門の年度開発テーマの中での重点テーマに対し、知財戦略表を作成、これに基づき隔月ごとに各技術部門トップと知的財産部のトップとで知的財産戦略会議を開催しフォローしている。重点テーマについては開発活動に先立つ先行技術調査、自社技術の分析からはじまり、発明の発掘のための特許検討会は開発のステップごとに実施している。デザインレビューでの評価項目としても、特許に関する報告を必須としている。事業領域が広いため、各担当はそれぞれ複数の技術部門を担当している。

### (2) 権利活用

知的創造サイクルを当社の活動に当てはめてみると、権利の活用の部分が強化すべき点としてあげられる。社内実施に関してはそこそこの実施率ではあるが、権利保護活動についての意識が低かったと反省している。これは知的財産部だけではなく技術部門とともに活動すべきことであり、前述の知的財産戦略会議において、自社保有権利の再確認や権利被侵害調査の強化についての計画を立て活動している。

### (3) 職務発明報奨制度

昨年4月に施行された改正特許法に合わせ、当社でも職務発明報奨制度の改訂を行った。実施報奨については、これまでの3年ごと定額報奨から、毎年評価のうえ級別報奨として発明者のインセンティブにつなげている。

## 4. 今後の課題

### (1) 人財育成

知的財産活動には特許をはじめとする専門知識の習得は当然のこととして、知的創造サイクル、三位一体の知財戦略を理解し、技術部門と一体となって活動できる人財が必要である。社外の教育講座活用、日常業務での教育とともに知財戦略会議への参画などを通じ、広い視野を持った知財マン育成を目指している。さらに昨今のグローバル化の中で、当社も海外展開が活発化してきており、知財活動も対応が迫られてきている。語学研修にも今後は力を入れていかねばならない。

### (2) ブランドプロテクション

最近では海外の市場において商標権の侵害、いわゆる模倣品被害が顕在化してきている。この対策についても検討を開始している。創立70周年を機に通称社名の採用、ロゴマークのリニューアルなど、全社を挙げてブランド戦略を立ち上げたところでもあり、今後、KYBブランドの保護に向けて知的財産の側面から活動強化していく。

### (3) 知的財産戦略活動

当社の場合、技術先行の社風が強く、知的財産戦略についてはまだ知的財産部と技術部門だけの活動にとどまっている。今後は事業（営業）も巻き込んだ真の三位一体の知財戦略活動へ、体質の改新を図っていきたい。

(原稿受領日 2006年2月20日)